

第十一回建築ツアー

@ 丸の内・有楽町・早稲田

コ ッ ト シ

①大手町野村ビル

所在地:千代田区大手町 2-1

建築年:1932 年/1994 年

設計:佐藤功一/ 大成建設



コーナーに時計台を掲げたオフィスビルで最上階の室内衣装が華やかと言われていたが建て替えにより高層最上階にはプールが設置されている。

②日本工業倶楽部

所在地:千代田区丸の内 1-4

建築年:1920 年/2003 年

設計:松井貴太郎/三菱地所設計

ファサードには御影石による古典的な双柱を並べ、屋上には当時の二大工業すなわち鉱業と紡績業を象徴した男女の彫像が置かれたセセッション様式のビル。



③新丸の内ビルディング

所在地：千代田区丸の内 1-5-1 建築年：1954 年/2007 年

設計：三菱地所/三菱地所設計、コンセプトデザイン（ホプキンス・アーキテクト）

コンセプトデザイナーにマイケル・ホプキンスを起用し建て替えされ、アンティークでクラシカル、上質なエントランスに仕上がっている。



④東京海上日動ビル本館

所在地：千代田区丸の内 1-2-1

建築年：1974 年

設計：前川國男設計事務所

赤みを帯びた籠状の高層ビルで当時の日本の最先端技術を駆使して設計と構造挙動の確認が行われた。



⑤東京駅

所在地：千代田区丸の内 1-9-1

建築年：1914 年/2012 年

設計：辰野金吾/JR 東日本建築設計事務所

赤煉瓦に白い意匠を帯状にめぐらせた様式はクイーンアン様式を独自にアレンジした「辰野式」。500 億円かけて赤レンガ駅舎を再現。ドーム屋根の内側の干支と共にドーム上部のアーチ部分のキーストーンに豊臣秀吉の兜（馬藺後立兜）のレリーフがあるのが興味深い。



⑥JP タワー (kitte)

所在地：千代田区丸の内 2-7-2

建築年：1931 年/2013 年

設計：吉田哲郎/三菱地所設計

モダニズム建築の傑作。装飾を廃して凸凹をなくした平坦な面、柱と四つある梁による簡素な構成。白タイルの壁と黒枠の大窓、内部の白壁と黒大理石の八角柱など当時としては斬新。



⑦明治生命館

所在地: 千代田区丸の内 2-1 建築年: 1934 年

設計: 岡田信一郎

明治初期における洋式建築の最高傑作と言われている、コリント式のオーダーが特徴。設計の岡田信一郎は完成を待たずに他界、弟の捷五郎が後を引き継いでいる。



⑧三菱一号館

所在地: 千代田区丸の内 2-6-52 建築年: 1894 年/2009 年

設計: ジョサイア・コンドル/三菱地所設計

三菱ではロンドンのシティにあるロンバート街にならってオフィスを作り、明治の終わりごろには「一丁ロンドン」という街を作り出した。2009 年にはレンガ組構造の建築を、かつてと同じ場所に復元、背後に建つ高層ビルと一体で再開発。

日本の近代建築の父と言ってもいい、コンドルが日本の学生に伝えたかった建築の本質は歴史的な建築様式の中にある”美”でそれを体系的に教え日本に建築設計を根付かせた人。



コンドル先生



⑨新有楽町ビル

所在地: 千代田区有楽町 1-12-1

建築年: 第1期 1967年,第2期 1969年 設計: 三菱地所設計

オシャレなブルーのタイル張りのビル。ガラス窓のラウンドコーナーが特徴で建物に快活なアクセントを加えている。



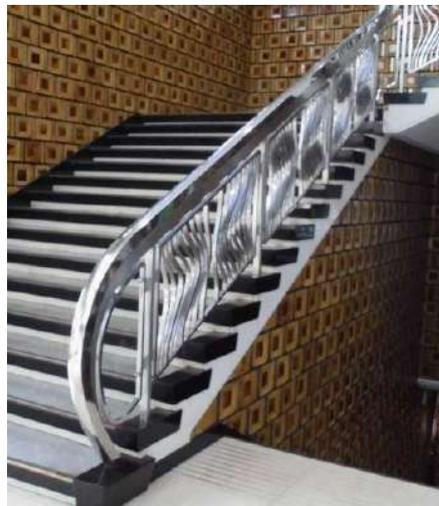
⑩有楽町ビル

所在地: 千代田区有楽町 1-10-1

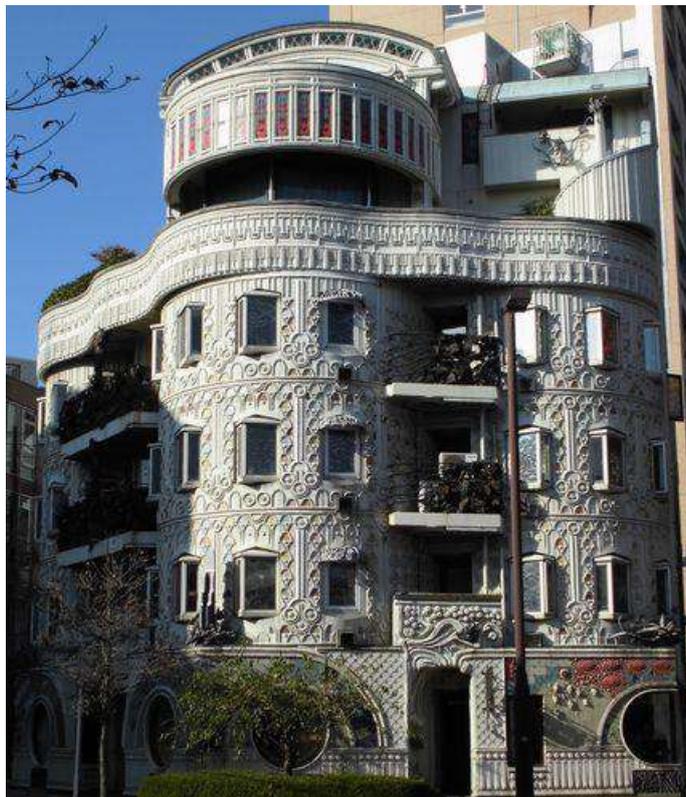
建築年: 1966年 設計: 三菱地所設計



低層部が白大理石の縁取り、外壁はワインレッド色のカーテンウォール張りで当時は斬新。また、陶板タイルの壁面とステンレス仕上げの手すりのある階段ホールの特なモダンさが良い。



⑪ ドラード早稲田 (和世陀)



所在地：新宿区早稲田鶴巻 517

建築年：1983年 設計：梵寿鋼

一見ラブホテル（笑）。しかし日本のガウディといわれている梵寿鋼の手腕は確かだ。全体の設計は自分で行い、15人ほどのアーティストや職人がアルミ彫刻、床の大理石モザイク、手の彫刻などを作るという共同作業がユニーク。



<参考文献>

生命の賛歌

シブいビル

日本の近代建築（上）

構造デザインマップ東京

ぼくらの近代建築デラックス

建築探偵術入門

建築家 梵珠鋼+羽深隆雄

鈴木仲子

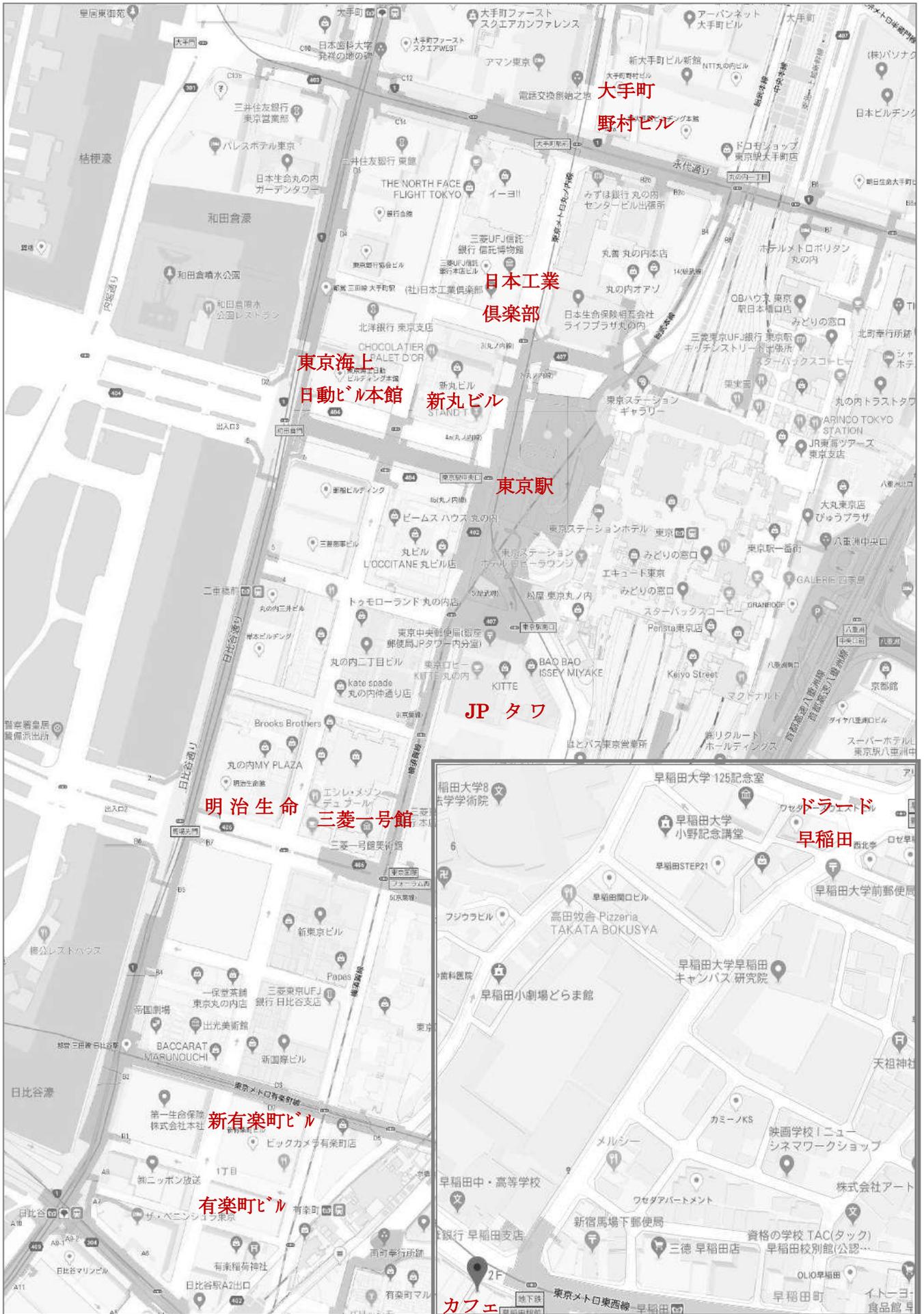
藤森照信

構造デザインマップ編集委員会編

門井慶喜、万城目学

東京建築探偵団

～ Copyright (C) コットン ～



GOTO